

抄遊

ドイツのコー

ケスラー氏はどんな立場

ル政権下で原子
力安全委員長を
務めたキュンタ

にあっても、一科学者とし
て、自分の信念を貫くべき
だという考えの持ち主だ。

ー・ケスラー氏

その姿勢が明確になったの

は、私の古い友人だ。出会

が九八年、原発推進のコー

いは一九七六年。日独研究

ル政権から脱原発を掲げる

機関が協力して新型原子炉

現政権に交代した時だ。彼

(高速炉)の共同研究を進

は原子力安全委員の職を慰

めるため、ドイツの

留されたにもかかわ

カールスルーエで関

らず、申し出を断っ

係者が会ったのがき

た。

っかけだった。

インテリ然とした

使用済み核燃料、

いかにもドイツの学

プルトニウムの処理

者らしい風ぼうが印

方法を巡る意見の相

象的だった。ドイツ

違が理由だった。「プ

も日本も、ともに核

ルトニウムを抱えた

を持たないことを世

まま、ドイツはどこ

界に公約している非

に行くのか」。彼は

核国。その中で未来

そう唱えて、核燃料

のエネルギーである

をリサイクルしない

原子力技術をどう社会に役

かけた。私はそれを聞き、

立てていくか、頭を悩ませ

時勢がどう変わっても、自

てきた者同士として、すべ

らの信念を貫く尊さをかみ

に意気投合した。

しめた。

以来、私たちは家族同然

来年には、互いの夫婦

のつきあいをしてきた。私

が結婚四十周年を迎える。

がドイツに行く時は、互い

「四人で盛大に祝おう」と

の夫婦とワインの飲み歩き

という約束を今から楽しみに

を楽しみ、ケスラー夫妻が

している。(ふじいえ・よ

来日する時は、我が家に滞

ういち原子力委員会委員

在してもらった。

長)

一 科学者の信念

一 洋 家 藤